**第22章　衛生**

**医療施設、病床の概況**

　昭和60年の医療施設総数は１万1100施設で、前年に比べ144施設の増加である。これを種類別にみると、病院総数は590施設で、そのうち一般病院が548施設（構成比92.9％）で大半を占め、以下、精神病院41施設、結核療養所１施設の順となっている。なお、人口10万対の病院数は6.8、一般病院で6.3、1施設当たりの人口は、病院総数で約１万4666人、一般病院で約1:万5790人である。また、一般診療所数は6652施設で、前年に比べ43施設の増加、人口の10万対の一般診療所数は76.9で、１診療所当たりの人口は1301人である。歯科診療所数は3858施設で前年に比べ94施設の増加、人口10万対の歯科診療所数は44.6施設で、１診療所当たりの人口は2243人である。
　全施設の病床数は11万5463床で、前年に比べ2373床（2.1％）の増加である。人口10万対の病床数は1334床で、全病床数のうち93.0％が病院、7.0%が一般診療所の病床である。また、一般診療所の病床を含めた一般病床が78.1％で最も多く、以下、精神病床が17.9％、結核病床が3.3％の順となっている。

**死亡の概況**

　昭和60年中の本府の死亡数は４万8152人、10分55秒に1人亡くなったことになる。人口千対の死亡率は5.6で、全国（6.3）でも低い方である。
　主要死因別の順位をみると、トップは悪性新生物１万3276人（構成比27.6％）、以下、心疾患9412人（同19.5％）、脳血管疾患6336人（同13.2％）、肺炎及び気管支炎3305人（同6.9％）、不慮の事故及び有害作用1638人（同3.4％）、慢性肝疾患及び肝硬変1549人（同3.2％）の順となっている。

**伝染病患者の概況**

　昭和60年中の府下における伝染病発生届出総数は、1361人で、その内訳をみると、法定伝染病181人、届出伝染病201人、性病979人となっている。

**幼児・児童・生徒の体格**

　昭和60年度における府下の幼児・児童・生徒の平均体格をみると、身長・座高については、男子の12才から13才、女子の10才から11才の成長が大きく、それぞれ7.7cm ・ 3.8cm、6.5cm ・ 3.3cmの伸びであった。また、体重・胸囲については、男子の13才から14才、女子の10才から11才の成長が大きく、それぞれ5.8kg ・ 3.6cm、5.2kg ・ 4.6cmの伸びであり、男女ともこの年齢間における成長が著しい。

**公害の現状**

　府域の公害の現状は、高度経済成長期に多発した各種の公害事象に対し、発生源対策等をはじめ各般の施策等が進められた結果、事業者はじめ関係者の理解と協力もあり、ひと頃に比べ全般的には改善の傾向が見られるようになった。
　しかしながら、窒素酸化物による大気汚染、一部河川や大阪湾の水質汚濁、自動車等移動発生源による騒音など、なお一層の改善努力を必要とするものも多く残されている。なお、昭和60年度の本府及び市町村に寄せられた公害苦情件数は5213件で、そのうち騒音が全体の38.8％とトップ、次いで大気汚染21.4％となっている。